# 農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とっとり農業戦略課 研究・普及推進室　まとめ
平成27年2月13日　現在

| 作物名 | | 生育状況等 | 今後の見通しと対策 |
|---|---|---|---|
| 作物 | 麦 | ・しゅんれい特有の黄化症状が見られ始めた。<br>・11月10日までの播種分は茎数、葉齢、幼穂形成期いずれも昨年並だが、一部、湿害を受けているほ場が見られる。<br>・11月10日以降の播種分も生育は昨年並だが、生育量はやや少ない状況である。 | ・1月下旬発行の技術情報で排水対策、穂肥の施用（晩限は3月中下旬）の技術徹底を図っている。 |
| 果樹 | 果樹共通 | ・平年並みに、せん定作業中が進んでいる。<br>・雪害は発生していない。 | ・今後も大雪にならなければ、順調に剪定が進む見込みである。 |
| 野菜 | 白ねぎ | [秋冬ネギ]<br>・西部地区では降雪が少なく順調に収穫・出荷が進んでいる。<br>・依然サビ病が見られる。<br>[春ネギ]<br>・年末年始の降雪による葉折れは目立たなくなり、回復している。<br>・秋冬ネギ同様、サビ病が見られる。<br>[夏ネギ]<br>・トンネル作型では、曇雨天と低温の影響により葉先枯れが見られるほ場がある。<br>・育苗は概ね順調に推移している。 | ・サビ病及び小菌核腐敗病の防除を徹底する。 |
| | ブロッコリー | ・“おはよう”の出荷が終盤となり、秀率の低下が見られる。大山地区では日量2,000ケース程度の出荷。<br>・2月の主力品種“ともえ”は12月、1月の低温の影響に生育がやや遅れ気味である。 | ・秋冬作型の終盤となり、大きなピークもなく出荷が続く見込みである。 |
| | ラッキョウ | ・今冬は積雪量が少なく、1月下旬の生育調査では葉長、分球数、球重のいずれとも平年を上回っており（前年対比105前後、球重は138）、順調に生育している。<br>・白色疫病の発生がやや見られる。 | ・肥培管理及び白色疫病の防除を徹底する。 |
| 花き | シンテッポウユリ | ・季咲き作型の最終発芽率は70～80%程度で、ほぼ揃って発芽している。発芽後の被覆除去が遅れたため、子葉が徒長しているものもある。<br>・今のところ病害虫の発生は認められず、順調に生育している。 | ・病害虫防除と肥培管理に留意する。<br>・灌水管理に注意し、過湿を避ける。<br>・日中は内トンネルを開けて換気に努めるとともに、保温用の被覆は除去し、十分な日照量を確保するよう努める。 |
| | ストック | ・低温のため開花が遅くなり、出荷量は減少している。<br>・彼岸出荷作型は開花を始めているものもある。<br>・凍害の発生や引き続き菌核病も見られる。 | ・日中は換気を心がける。少なくとも1日1回換気を行ない、空中湿度の低下に努める。<br>・晴れ間をみて菌核病の防除を行う。<br>・低温が予想される場合は、引き続き簡易暖房機の使用や不織布の被覆による凍結防止策を実行する。 |
| 飼料作物 | イタリアン | ・生育は概ね順調。播種の早いものは草丈25～30cmに成長している。 | ・湿害に注意する。 |